

岐阜農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成22年5月31日現在

今月の重点活動

■水稲

(鉄コーティング種子による湛水直播栽培の試験導入)

本県地域水田農業担い手連絡協議会では本年度鉄コーティング種子による湛水直播栽培を試験的に導入する。

取り組み農業者 7名 面積 約3ha

4月20日と5月14日に種子の鉄コーティング作業が行われ、鉄粉を粉衣する作業の支援を行った。

直播作業は5月28日から順次行われ、播種方式は、直播機による点播・条播と無人ヘリによる散播が予定されている。農業普及課では、今後、各種調査を通じて普及性等について関係機関と連携のうえ検討を行っていく。

粉衣・播種作業



播種直後の状況

主要農作物の生産振興

■ふるさとのじまん農産物づくり(アスパラガス)

(液肥利用で増収を狙う)

今年度は、生産者組織とともに増収を狙った液肥利用試験を現地実証に知り組んでいます。施用量、倍率など色々な方法を試して、経済的でぎふクリーン農業基準に適合した施用量と増収効果が期待できる適当な施用方法を検討していく。

(新規栽培者 定植から二カ月生育順調)

新規栽培者分24aについて、3月にアスパラガスの苗を定植し、二ヶ月が経過しましたが順調に生育している。

また、岐阜市黒野地区で4名の新規栽培者(10a)が栽培を開始し、管内でアスパラガス栽培が広がっている。

生育は順調で単価も1400円/kgの高値で推移している。

■麦

栽培者のアスパラ生育状況

(赤かび病の適期防除の指導)

各組織では、出穂状況を把握しJAと連携して各集団ごとに防除の時期等の計画を立て、それぞれ2回の防除が行われた。

農業普及課では5月10日～14日の間に赤かび病の発生状況を調査し殆ど発生はなかった。5月末も同程度の状況である。

■いちご

作物担当普及指導員の赤かび調査

(出荷量天候不順で前年比92%、親苗生育順調)

いちごの出荷は5月末現在、本県市(糸貫)岐阜市の一部を除いてほぼ終了した。春先の天候不順で後半の出荷量が伸び悩み、現在までの実績(共選データ)は、出荷量前年対比92、価格868円/kg(前年対比101)、親株の生育は概ね順調で、ランナー出しが始まっている。炭そ病等病害虫防除や株の管理について指導を行っている。

(新規就農者育成支援)

今年度の新規就農者6名が育苗を開始し、本県市内での1名が研修を開始した。

また、6名については就農支援資金を借り受けるため5月11日の農業改良資金制度等推進協議会において、経営計画等協議された。

■えだまめ

(消費者収穫体験ほ場の設置)

全農・JAぎふ・えだまめ部会では、「岐阜えだまめ」消費宣伝のために、えだまめの収穫体験を計画しており、農業普及課では、収穫体験展示ほ場の設置に係る支援を行っている。

5/1: 施肥・畝立 5/2: 播種・防虫ネット被覆

(新規栽培者の育成)

4月26日に岐阜市方県地区の新規栽培希望者4名を対象に栽培研修会を開催した。また、昨年度に引き続きJAぎふ枝豆婦農塾を5月25日に開催され、普及指導員からほ場準備、播種等作業のポイント等を支援した。(参加者10名)。

■にんじん

(春夏にんじん出荷始まる)

5月7日に目揃え会が行われ今年の出荷が始まった。農業普及課から安全な農産物の計画出荷等について指導を行った。

平成22年: 78戸44.7ha (H21年84戸48.5ha)

5月23日出荷量は7,718ケース。5月15日～6月20日頃まで岐阜・名古屋・北陸市場に出荷されます。単価は平年に比べ安価ですが、月末に向け上がってきた。

役員等による収穫体験ほ場の移植作業



春夏にんじん集荷状況(5/末)

■だいこん

(GAPの取り組み)

J Aぎふ大根部会では今年からGAPに取り組んでいる。4月24日に普及指導員と則武・鷲山地区の生産者で作業場の現地確認調査を実施し問題点を抽出した。

(農商工連携の動き[守口大根])

守口大根の「守口漬け」以外の新たな需要確保対策として、新たな商品づくりが検討され、普及指導員はそのコーディネイトの立場で支援を行っている。

■にんにく

(適期収穫に向けた研修会が各地で開催)

にんにくの収穫時期を迎え、岐阜市、本巣市、山県市の各産地とも適期収穫に向け研修会を開催し、収穫適期の見分け方等の指導助言を行った。

今年は、岐阜市を中心に側球から展葉してくる「二次成長」の発生が問題となり、収穫時期の生育状況を見て加工利用の検討が行われている。

■かき

(大玉生産に向けた摘らい講習会の開催)

柿の大玉生産を目指して各産地で摘らい講習会を開催している。摘らい作業は5月末まで続く予定である。今年のかきの生育は4月以降の低温の影響から生育が遅れ、開花期が平年より5日程度遅い状況で、各産地5月18日頃から授粉用ミツバチの導入が始まり着果安定を図っている。



(定年退職者等対象の技術研修会とJ A営農指導員との連携)

岐阜市、本巣市では定年退職者等を対象に研修会を開催している。岐阜市は「基礎研修会」本巣市は「ブランド柿育成クラブ」の名称で振興会役員、普及指導員等が講師となり定期的に開催。受講者は両市で約70名となっている。

5月20日には、柿担当営農指導員を対象に実践的技術の習得を目的に摘らい講習会を開催した。講習会では、作業のねらい、方法等を実習を行った。今後は7月に摘果研修、10月に成果検討、2月に剪定研修を計画している。

■花き

(フランネルフラワー新品種の試験栽培に取り組む)

フランネルフラワー新品種(エンジェルスター)の試作栽培について、管内生産者の大部分が取り組むこととなり、新品種の特性、播種時期等の指導を行った。

担い手の育成・確保

■集落営農組織・営農組合

(稲発酵粗飼料(WCS)の生産拡大[羽島市])

羽島市の4集落営農組織では、WCSについて昨年の試験導入を経て今年は生産拡大される。農業普及課では農薬安全使用の支援をしている。 H21: 2.6ha → H22: 約30ha

(水田農業担い手協議会を設立[J Aぎふ])

5月7日に、岐阜市内の水田農業の担い手を対象に「岐阜市水田農業担い手協議会」の設立された。この組織化は、担い手への農地集積促進と農業者の資質向上等をねらいにJ Aぎふが中心となって進めている。既に本巣市、瑞穂市は設立済みで、今後7月末を目途にJ Aぎふ管内の行政区域単位で組織化が進められる。

■多様な担い手

(企業参入者への技術支援[本巣市])

平成21年度に建設コンサルタント会社(岐阜市)が本巣市根尾能郷地区で耕作放棄地を再生し、今年度から加工業者との契約で加工トマト等の生産を開始した。農業普及課では加工トマト(5/17.18定植)コンニャク(5/18~22定植)の技術支援を行い、今後はスイートコーンが計画されており、J A担当者と作業計画の提案を行っている。加工トマト定植後のほ場



地域の動き等

(営農指導員研修で水稻栽培技術指導[J Aぎふ])

J Aぎふでは、5月12日に出席者57名の営農指導員を対象に水稻栽培技術研修が開催され、普及指導員が講師を務め、水稻の前期管理やハツシモ岐阜SLについて指導を行った。今後は、営農指導員による水稻青空教室が各地で開催される予定である。



営農指導員研修会

(アイガモ田植え体験に申し込み多数[羽島市大須地域])

アイガモ稲作研究会では、来月に田植え体験が実施され、昨年を大きく上回る400名以上の申し込みがあった。当研究会は昨年度、千代菊(株)との連携で消費者が米づくりから酒づくりまで体験するプロジェクト活動認められ、県の「ぎふ一村一企業パートナーシップ運動」に登録された。

農業普及課では、当日、参加者(一般消費者)には作業手順や米の大切さ等説明。研究会に対しては、今までに運営方法等の支援をしている。